

# せめぎあう国際主義とナショナリズム

## ——「文化の擁護」会議を背景とした 1930年代フランスにおける人間観の再構成



日時：2026年3月7日 **土** /13:00-18:00

形式：対面・Zoom（ハイブリッド）  
場所：R49教室

参加無料  
事前申込

 **趣旨説明** 13:00-13:10

 **セッション1** 13:10-14:20

文化擁護と現実の再構成をめぐって 司会：藤原貞朗

飛嶋隆信（東京農工大学）

「1930年代フランスにおける「レアリスム」の意味——ルイ・アラゴンの美術批評とその周囲」

吉澤英樹（南山大学）

「1935年文化擁護国際作家会議とアンリ・プーライユ：『反潮流』誌にみる文学的抵抗」

 **セッション2** 14:35-16:10

日常・展示・政治——「新しい人間」像をめぐる文化実践 司会：飛嶋隆信

鈴木重周（南山大学）

「クロード・カーアンの政治参加と「新しい人間」像の探求：1930年代の活動に着目して」

柳沢史明（西南学院大学）

「1930年代装飾美術批評における室内空間：「奢侈luxé」とその大衆化をめぐって」

藤原貞朗（茨城大学）

「17世紀フランスのレアリテの画家たち」展（1934年）の中道左派的文化ポリティクス」

 **セッション3** 16:25-17:35

思想と実践——知識人の系譜と「新しい人間」の構想 司会：吉澤英樹

長谷川一年（同志社大学）

「世紀転換期フランスにおける知識人論と芸術論：ペルーティエ、ソレル、バンダ」

南祐三（南山大学）

「ヴィシー期フランスにおける「新しい人間」像：国立幹部学校"ユリアージュ"を中心に」

 **総括** 17:35-18:00

申込方法：参加を希望される方は、QRコードより  
受付フォームにお入りいただき、事前申込ください。

参加方法によって受付フォームが異なりますのでご注意ください。

※【申込締切】2026年3月5日（木）12:00 pm

申込はこちら



要旨集はこちら



主催：ヨーロッパ研究センター  
共催：科研費基盤研究C「世界恐慌後フランスの「ネオユマニズム」に見る30年代型ポストモダンのパラダイム」（24K03806）  
研究代表者：吉澤英樹  
科研費若手研究「クロード・カーアンのユダヤ性：表現する主体としてのユダヤ人女性に関する研究」（22K18120）  
研究代表者：鈴木重周

問い合わせ：南山大学ヨーロッパ研究センター  
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18  
Phone：052-832-3111  
Mail：center-euro@nanzan-u.ac.jp